

時速119キロも

スピード違反じゃないよ♪

大した揚場もなく高校に進学し、平凡すぎたクラスメイトに囲まれながら日々を過ごすカジ少年。入学後2週間程で迎えるオリエンテーション合宿に向け、クラス内で話し合いが行われることに。

オリエンテーション合宿とは、入学間もない1年生がどこぞやの森的な場所に連れて行かれ、勉強やら勉強やら親睦を深める遊びやら勉強やらを強制的にさせられる、森の学校のハードモードのようなやつなのだ。そして本日のホームルームの議題は、オリエンテーション合宿中に行われるクラスごとの「だしもの」決め。とはいえ、平凡ポイズ&ガールズの話し合いでは議論は全く進まず、モヤモヤとした空気が流れ始める。

「やりたいもの、何かないですか？」

前回話題の八木こと八木浩幸が、早くもここでイニシアティブを發揮する。あんたはグイグイくるねえ。反応薄のクラスメイトに対したたみかける八木。

「じゃあ、パーマンの主題歌を歌うのはどうですか？」

いきなりな提案に静かめにざわつく教室だったが、「パーマンいいんじゃないの」という雰囲気次第に広まり、数分後には「パーマン肯定説」が全体を支配した。パーマンだろうがグーマンだろうが正直何でもよかったカジもこれに同調。最終的には、みんなそこそこのノリでパーマンの歌を歌い始めたのだった。

「誰かパービーをやればいいじゃん！」

平凡ポイズのうちの誰かが言い放つ。パービーとはパーマン2号、猿的なやつのこと。誰かがこれに仮装して、途中で登場したら面白いんじゃないという提案だ。

『パービーをやるのは自分しかない！』カジの脳裏によぎる。こんなこともあろうかと、「カジ」面白キヤラ」という方程式を皆に植え付けるべく、入学後の数日間、あれやこれやとまあまあ努力してきたのだ。「パービー誰にしますか？」

八木の呼びかけに『パービーをやるのはカジくんだよねえ』という空気が流れるに違いないと高をくくっている……

パービーってなんすか？



1~4号までいるパーマンのうち、猿(チンパンジー)がパービーことパーマン2号だ。チンパンジーなので、言葉は話せないが、「ウィッキー」的な鳴き声で他のメンバーたちとある程度の会話ができるというシロモノ。

「フナツがパービーっぽくね？」

平凡ポイズのうちの誰かがまたも言い放つ。フナツ!? フナツなの!? あの背が低くて色黒で猿顔のフナツがパービー!? あ、でも間違いない適任。自分のパービー意欲を遥かに超えてくる納得具合。もはや完敗だ。パービーの座、譲ったる!

華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

カールリブラ

講座

カジのひねもすハイスクール純情派

文/カジ